

Case : 154

誤ってリクライニングレバーを握ってしまい、転倒しそうになる

場面の説明

ブレーキをかけようとしたが、誤って近くに付いていたリクライニングレバーを操作してしまった



利用シーン	 移動  外出
主な利用場所	 玄関  段差・縁石
介護保険の種目	 車いす
分類コード (CCTA95)	122190 (姿勢変換機能付き車いす)
介護テクノロジー	—
二次元バーコード	

解説

リクライニングやティルト機構の付いた車いすでは、経験した人も多いのではないのでしょうか。このような機能の操作レバーがブレーキの操作レバーと似ていることが混乱の原因です。形状や色を変えることで、間違いを防ぐ対策をしている車いすもありますが、判別しづらい機種もあり、利用者側でわかり易いマークをつけておくなどの工夫をすることもヒヤリ・ハット防止には役立つでしょう。

参考要因（要因の例であり、これだけが正解ということではありません）

人：操作に慣れていなかった

モノ：操作レバーが同じ箇所にたくさんついておりわかりづらい

日付：	所属：	氏名：
-----	-----	-----

Case : 154

誤ってリクライニングレバーを握ってしまい、転倒しそうになる

事例詳細



回答前に見ないこと

場面の説明

ブレーキをかけようとしたが、誤って近くに付いていたリクライニングレバーを操作してしまった



どのような要因が考えられますか？	どのような対策が必要でしょうか？
人（本人・介護者・関係者）の要因	
モノ（福祉用具）の要因	
環境の要因	
管理の要因	

メモ